

道路行政セミナー2013年6月号 NO.057 2013年6月26日発行 ポイント

◆◆特集◆◆

★「道路法等の一部を改正する法律」の概要について★

(国土交通省 道路局 路政課)

平成25年5月29日、第181回通常国会において、「道路法等の一部を改正する法律」が可決・成立し、平成25年6月5日に公布された。

今号では、道路構造物の予防保全・老朽化対策や道路の防災・減災対策の強化を主な内容とする同法につき、改正の経緯・内容等を解説する。

.....

★道路占用許可の特例制度を活用したオープンカフェ事業について★

(新宿区 みどり土木部 土木管理課)

新宿区では、「歩きたくなるまち新宿」の実現に向けて「新宿駅・四ツ谷駅周辺地区都市再生整備計画」を策定し、展開している。この度、この計画書に基づき道路占用許可の特例制度を活用したオープンカフェが、平成24年11月に本格実施となり、目標である「歩きたくなるまち新宿」が一部体現できたので、本稿にて紹介する。

◆◆TOPICS◆◆

★札幌都心部における都市型積雪寒冷地の 自転車走行空間の実証実験について★

(国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 都市圏道路計画課)

積雪寒冷地における自転車走行空間の整備手法として、交通規制の伴わない自転車走行指導帯を道内の国道では初めて車道（冬期堆雪スペース）に整備し、課題や効果の検証を行う実証実験を行いましたので、同実証実験で得られた知見及び結果について紹介します。

◇◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◇

★放置自動車撤去の取組みについて★

(国土交通省 九州地方整備局 熊本河川国道事務所 熊本維持出張所)

平成14年4月に熊本市において、「熊本市放置自動車防止条例」が制定され、放置自動車の廃物等の認定が可能となりました。

今回、この条例に基づき、熊本維持出張所管内で初めて、放置自動車の廃棄処分を実施した事例を紹介します。

.....

★“ふじのくに” 静岡県のみちづくり★

～技術基準等の条例化と道路技術審議会の設置～

(静岡県 交通基盤部 道路局 道路企画課)

静岡県内では、東名・新東名高速道路をはじめ、港湾、空港を基軸とした陸・海・空の力強い交通ネットワークの強化が、現在、着実に進められているところである。

本稿では、新たな道路整備計画となる「ふじのくにの“みちづくり”」や、道路の技術基準等の条例化、道路技術審議会及びITSの有効活用に向けた取組について報告する。

.....

★原田橋復旧に向けた取組み★

(浜松市 土木部 道路課)

一般国道473号原田橋は、広域幹線道路であるとともに、佐久間地域の生活を支える唯一の道路である。メインケーブルの破断から、昨年4月に実施した原田橋の通行止めが佐久間地域に与える影響は極めて大きく、一日も早い本復旧が必要とされている。こうした中、現道の交通を維持しながら3年という短期間の目標を設定し、計画から完成まで成し遂げるための取組みについて紹介する。

◇◆お知らせ◆◇

★『ゆずり合い せまい道路も 広くなる』★

～平成25年度「道路ふれあい月間」推進標語決定！～

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

国土交通省では、「道路ふれあい月間」の行事の一環として、改めて道路の意義・重要性について考えて頂くことを目的に、推進標語を広く一般から募集しました。

審査懇談会における厳正な審査の結果、応募総数7,663作品の中から、最優秀賞3作品、優秀賞6作品の推進標語が選ばれました。

◆◆編集後記◆◆

新しい機能やデザインをもつものに心を惹かれますが、長く使うほど愛着がわき、修理をしてでも使い続けたいものがあります。

例えば、革製品。時間の経過とともに程よく色づき、手に馴染み、使いこむほどに味がでてきます。こうなると、使い心地がとてもよく、傷がついてしまっても、縫い目がほだけてしまっても、修理をしてまで使い続けたいくなります。

一方で、電化製品は、とても気に入っているにもかかわらず、不具合が生じてしまうと、保守部品がなかったり、サポート期間が限られていたり、長く使い続けることは困難です。同様に、生活に欠かせなくなったパソコンソフトに関しても、サポート期間は限られているため、壊れたわけではない製品を買換えるどうか、また、その必要性について悩んでいるところです。日進月歩の世界では、古い製品を際限なしにフォローするのは難しいものです。

例えに賛否はあると思いますが、電化製品やパソコンソフトと違い、道路管理者は「古い道路はサポート（維持管理・更新）しません。」とは言えません。したがって、財政が好転しないなかでも、道路の維持管理・更新は、考えていかなければならない大きな問題として取り上げられ、道路管理者において工夫をしながら進められていることと思います。

先日、近所を歩いていたら、新しいマンション建設のため、これまで使っていた道路が廃道となるお知らせが出ていました。一度整備されると、簡単に「使えません」ということのできないのが道路ではありますが、このように、これまでよく通行していた道路がなくなってしまうことは、寂しく、残念でもありました。身近すぎてその大切さに気づかず、毎日使っている道路。古くなり、新しいものと取り替えることが必要な場合もありますが、これまで地域の生活を支えてきた道路が、これまでと使い心地が変わることなく、いつもそこにあってくれたら…と考えさせられる出来事でした。

昨今では、社会インフラの老朽化対策が話題となり、効率的な維持管理・更新が求められているところですが、一方で、道の歴史に着目し、観光資源として地域貢献に活かすなど、道路の新たな活用、賢い道路の使い方などが考えられています。私見ではありますが、これまで、使ってきた道路に対する愛着がより深まるよう、使い続けることができれば嬉しく思います。(U)